

の かつ の
野方野神楽

神楽名

伝承地

指定等

伝承団体

野方野地区
高千穂町大字野方野

国指定重要無形民俗文化財

野方野神楽保存会
代表 甲斐 宗之



戸 取

◆ 神楽の概要・由来・その他

野方野神楽は、高千穂町岩戸地区の東に位置する野方野地区に伝わる、岩戸系統の神楽である。野方野の氏神社である石神神社は、国常立命が主祭神として祭祀されているが「高千穂庄神明帳」(延宝2年(1674))には「牛神大明神」とあり、高千穂神社の御祭神である三毛入野命(神武天皇の兄)に仕えていた牛を社傍にお祀りしたのが創建の由来と伝わる。畜産の神としての信仰が厚く、境内地には牛の石像が建立されている。

弘化3年(1846)の高千穂神社宮司田尻則満日記に、「10月21日晴天、野方野の石神の面彩色に付き、遷宮並びに祭礼相勤め、神楽宿は伝次方、其夜は同村新助方泊り」とあり、江戸後期に民家で夜神楽を奉納していた貴重な記録となっている。

祭り当日、神楽宿の準備が終わると、集落内の神仏を祭祀する社や祠、稲荷社・金毘羅社・秋葉権現社・水神社・地藏堂・観音堂などに、御幣と掛けぐり(竹の器に御神酒を入れたもの)を供える。夜神楽は5組の小集落により輪番で斎行されている。

◆ 芸能の機会・場所

- 野方野夜神楽... 12月第2土・日曜日(以前は旧暦の12月14日で、平成16年より現日程)
野方野公民館「ふれあい四季彩館」にて奉納
- 天岩戸夜神楽三十三番公開祭... 11月3日
- 春の石上神社大祭... 4月の第3土曜日(式三番+二番ほど奉納)

◆ 演目一覧

宮神楽	ごしんこう 御神幸・舞込み	まいこ 神楽宿神事	かぐら やどしんじ 太殿	たいどの 神降	かみおろし 鎮守
すぎのぼり 杉登	ちがため 地固	ひ 幣かざし	ゆみしょうご 弓正護	すみよし 住吉	いわくぐ 岩潜り
そではな 袖花	しば 柴のり	ちわり 地割	ほんばな 本花	ごこく 五穀	しちきじん 七奇神
ごしんたい 御神体	じゃきり 蛇切	やつぱち 八鉢	ぶち 武智	よにんちんじゆ 四人鎮守	たち 太刀かざし
おきえ 置絵	だいじん 大神	やまもり 山森	しばひき 柴引	いせ 伊勢	たちから 手力
うずめ 鈿女	ととり 戸取	まいびらき 舞開	くりおろし 繰下	くもおろし 雲下	

※平成30年(2018)12月に奉納された演目に基づく

◆ 演目の特徴

高千穂では岩戸地区にしか伝承されていない「蛇切」は、^{じゃきり}素盞鳴尊の八俣の^{すさのおのみこと}大蛇退治の舞で、島根県をはじめ、九州大分・熊本県等に^{いわみ}石見神楽系統の賑やかな大蛇退治が伝承されているが、岩戸の「蛇切」は高千穂らしい静かな一人舞である。夜明けに奉納される岩戸開きの神話にちなんだ「^{いわと ごぼん}岩戸五番」(「柴引」「伊勢」「手力」「鈿女」「戸取」「舞開」の六番)の中の、天岩屋戸にお隠れになった天照大神の居場所を探る「^{たちから}手力」では、四方に鈴を差出し、耳傍に返し、静かに聞き耳をたてる野方野独特の「^{さぐ}探りの手」の所作が見られる。氏神様と諸々の神々を里に招き、豊穡の感謝を三十三番の神楽に込めた神遊びの最後「^{くもおろし}雲下」では、男性の見学者も「^{くも てんがい}雲(天蓋)」の揺り下ろしに参加することが出来る。

◆ その他の特徴

- 面... ^{うしがみ}牛神様 (頭部に牛の角が施された牛神様面は「舞込み」「杉登(入鬼神)」「地割(竈神楽)」「舞開」など、重要な神楽で使用される)、五穀、七奇神、御神体、八鉢、柴引、手力、鈿女、猪鹿(獅子) 等
- 楽... 太鼓、笛、楽板
- 装束... 白衣、白袴、麻袴、^{すおう}麻素襖、^{たつつけばかま}千早、^{えぼし}裁着袴、^{えぼし}襷(帯)、烏帽子、みずら鉢巻、どっさり、毛笠 等
- 採り物... 鈴、扇、御幣、面棒、刀、弓、矢、榊、^{ざる}襷帯、御膳、五穀、杵、^{ざる}笊 等
- 文書... 「岩戸野方野 石神神社氏神祭 夜神楽33番」文責：田尻隆介 等

◆ 伝承の現状・課題

神楽保存会会員は21名で、20代から40代の舞手が大半を占めており、近年は集落内だけでなく、高千穂町に赴任した宮崎県西臼杵支庁の職員を神楽の舞手として受け入れるなど、活発な伝承活動に取り組んでいる。県内外からのイベント依頼も多く、^{こくがくいんだいがく}國學院大學で開催された「全国神楽シンポジウム2018」での神楽公演など、積極的に参加し周知を図っている。



袖花



山森



鈿女